

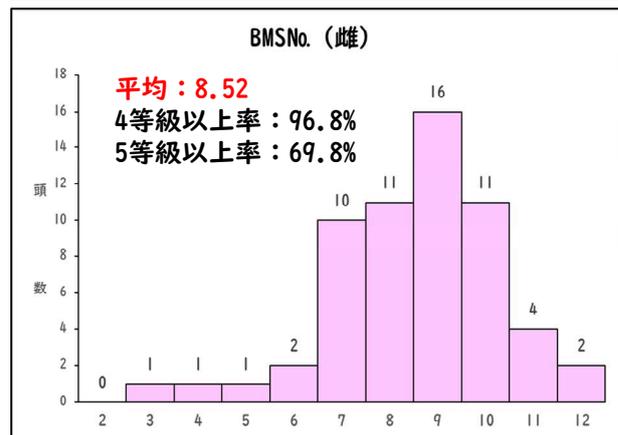
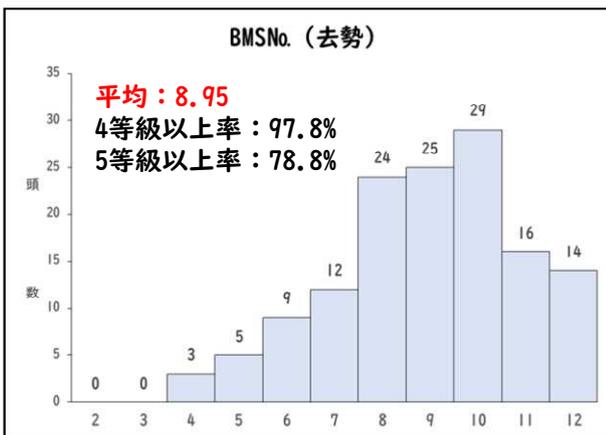
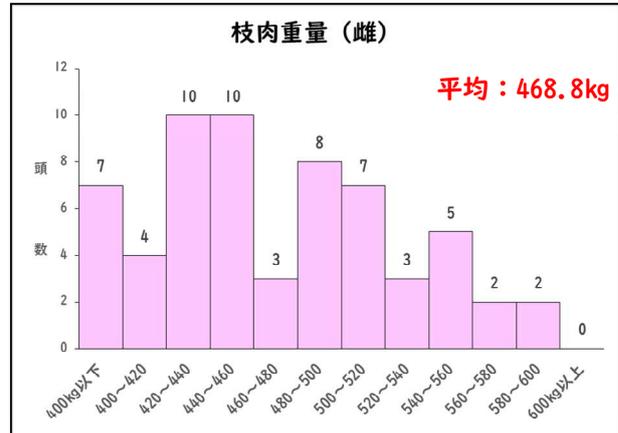
にくけん通信

● **茂光洋**，一般出荷の成績続々判明。好成績維持！去勢でBMSNo.平均8.95

《枝肉成績》

*2020年11月12日までに当所で集めた県内生産者の枝肉データ

	頭数	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	推定歩留	脂肪交雑
去勢	137	528.6	69.6	8.59	2.43	75.45	8.95
雌	63	468.8	65.7	8.14	2.65	75.19	8.52
合計	200	512.4	69.0	8.45	2.48	75.46	8.81



● **茂光洋**の市場出荷時の発育状況について当所で調査した結果、90%以上の子牛は標準発育の範囲内にあり、しっかりとした哺育・育成を行うことで、正常な発育をすることがわかります。

《出荷時の発育状況調査》

	調査頭数	10か月齢未満出荷				
		標準発育 (平均値) 以上	標準発育 (下限) 以上			
			体高	体重	体高	体重
去勢	229	184 (80%)	112 (61%)	153 (83%)	172 (93%)	170 (92%)
雌	171	156 (91%)	83 (53%)	88 (56%)	143 (92%)	150 (96%)
計	400	340 (85%)	195 (57%)	241 (71%)	315 (93%)	320 (94%)

本県の種雄牛は、これまで2代、3代と優良な血統が繋がったことがありません。そのため、当所では、「北国関7」の息牛「北平関」について10月から精液の配布をはじめています。当種牛は枝肉重量の育種価(141.3kg)が高く、増体系の牛を目標することができます。特に、田尻系、藤良系などで、枝肉重量の育種価が低い牛へ交配することで、後継牛の改良をすすめることができます。また、当所では、「茂光洋」号の息牛、異母3兄弟(「那珂茂晴」、「茂照国」、「茂忠6」号)についても、現在、改良組合の協力のもと、後代検定牛の育成等を行っています。

和牛の育種・改良に県種雄牛の精液を積極的に活用し、常陸牛の歴史を共につむぎましょう!

● 茂光洋の産子，枝肉共励会入賞記録

入賞	血統	性別	枝肉重量	ロース芯面積	バラ厚	皮下脂肪	歩留基準値	BMSNo.	共励会
名誉賞	茂光洋×安福久×金幸	去	620.5kg	108cm	9.3cm	1.3cm	80.8%	12	第12回茨城県肉牛生産者共進会
最優秀賞	茂光洋×安福久×第1花国	去	573.0kg	109cm	9.8cm	2.6cm	80.6%	12	第112回茨城県畜連常陸牛枝肉研究会
優秀賞	茂光洋×北国関7×安福久	去	598.0kg	86cm	9.4cm	1.4cm	78.1%	11	第116回茨城県常陸牛研究会
優秀賞1席	茂光洋×安福久×忠富士	去	560.5kg	86cm	8.2cm	1.5cm	77.8%	12	第16回茨城県家畜商組合常陸牛枝肉共励会
優秀賞	茂光洋×安福久×平茂晴	雌	499.0kg	90cm	8.5cm	2.4cm	78.3%	12	第110回茨城県畜連常陸牛研究会

● 茂光洋の産子，市場出荷時の発育状況

